

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	飯田産業技術大学事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	産業経済部	課等名	工業課		包含する細々目	1	7	1	5	10	18	3,800
政策	1 多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり											
施策	12 人材育成と企業、人材誘導											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議		不要						
		事業期間	12	年度～	年度	関連計画 条例等						地域経済活性化プログラム

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値				
	地元企業の従業員及び経営者	従業員数(飯伊地域)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		23年度以前に終了は終了年度とする	
			18000	19000			
	経営者数(飯伊地域)	経営者数(飯伊地域)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度			
			600	700			
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)				
	必要な技術及び経営管理能力を習得してもらう	能力が上がったと感じた受講者数	18目標	500	最終目標	1500	
			18実績	681	19目標	1000	↑
			23目標	1200	23実績		最終目標達成年度
		参加者の能力が上がったと感じた経営者数	18目標	10	最終目標	150	
18実績			50	19目標	100	↑	
23目標			110	23実績		最終目標達成年度	

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	複数の大学等から講師を招き、地元企業(主に製造業)の従業員、経営者を対象に基礎技術や経営管理能力を学ぶための各種講座を開催する。 具体的な手段 ・アンケートによる企業ニーズの把握 ・大学とのカリキュラム内容・日程の調整 ・企業への募集と説明	18年度の実績 年間を通しての基礎コース(新設) ・技術講座(22回・44時間) ・経営管理講座(24回・48時間) 特別講座(9コース) ・マーケティング講座 ・三次元CAD講座 ・大学シーズ発表会 ・信州大学大学院設立準備会の開催	延べ受講者数 開講コース(回数) 大学院設立準備会開催回数	2038人 75回 5回
	19年度計画	年間を通しての3講座の実施 ・技術講座(上級・中級・初級の3コース) ・経営管理(6コース) ・一般講座(1コース) ・特別講座の開催 ・技術交流(大学シーズ発表会)	延べ受講者数 開講講座(回数)	

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他		
	一般財源	3,800	3,800
	事業費計(A)	3,800	3,800
人件費	正規職員所要時間	18年度 460	19年度 420
	臨時職員等所要時間	10	48
	人件費計(B)	1,656	1,554
	トータルコストA+B	5,456	5,354

特定財源内訳や補足事項	
-------------	--

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	事業活動を改善する	改善された企業数	現状値	15	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	20
			現状値		19実績	
			20実績		21実績	
		22実績		23目標		

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
・4年生大学の誘致が困難な状況であったため、それに代わる事業としてキャンパスレスな大学機能を有する事業を平成12年に開始した。	・企業は専門的な人材の即戦力を求めている。 ・人材養成に対する投資をする企業、しないできない企業の二極化が進んでいる。	・企業からは基礎だけでなく、すぐ現場で役立つ専門技術の習得が求められている。

### 【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) 結びつく (その理由)	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) 余地がある (その理由)
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) 影響あり (その理由)
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)	(評価) 統合可能 (類似事業名、理由)
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)	(評価) 必要ある (その理由)		成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) 可能 (その理由)
			公平性 評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) 妥当である (受益者とその理由)

### 【Plan】改革改善

今後の事業の方向性	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 現状維持	カリキュラムについて、運営委員会の組織確立までには至っていない。しかし、19年度の開講にあたっては平成18年度の受講生へのアンケートを実施して、企業のニーズを把握した上で、カリキュラムの選定を行う。 様々な機会を捉えて、広報周知に努め、利用者の増加を進める。
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	平成18年度の参加者アンケートをまとめ、企業従業員が受講しやすい時間設定やテーマ選定を行う。夜間実施のために持続可能な運営体制の整備が求められる。

#### 【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	必要性がない	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？		

#### 【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	